キャラクター名
氷室 太陽

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル サラマンダー	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	UGNエージェント
オプショナル		年齢	不詳	性別	男
覚醒	渇望	衝動	吸血	初期侵食率	34 %
出自	妹がいる	経験	技術畑	邂逅	家族のような女性

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	2			7
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	35
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Cool tiny sun	白兵	7r+1	4	7		2
芸術的☆氷炎のCollaboration!!	白兵	7r+1				2,3
冷徹で苛烈な拳 Hot cool beaaaat!!	白兵	10r+1	4	7		1,2,5 C値7 侵食値5
必刻の愛 Death blow	白兵	10r+1	4	7		1,2,5,6 C値7 侵食値8

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
氷室 恵(妹)	P 庇護	N 隔意		
堂島 孝弘(同僚)	P 友情	N 不信感		
神域早月	P 尊敬	N 憤懣		
春日恭二	P 執着	N 嫌気		
猫木杉 英	P 連帯感	N 不快感		
庚 夕秋	P 親近感	N 不安		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	-	-	
効果：	ｸﾘﾃｨｶﾙ値-Lv(下限7)							
白熱	1	3	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	拳や足先を超高熱化する							
氷の回廊	5	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	-	
効果：	氷橋生成で戦闘移動距離+[Lv*2]m							
終末の炎	2	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	[Lv*5]までの任意HPを消費後ﾒｲﾝの攻撃力+[消費HP]する							
貪欲なる拳	2	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	対決	-	
効果：	ダイスを+[Lv+1]個する							
貫きの腕	3	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	単体	対決	-	
効果：	1ｼﾅLv回 ガー不攻撃							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

氷室太陽は名前に反し冷めた人柄であり、家族との交流も可もなく不可もなくといった状況であった。
何かに熱を上げる程の関心を持てなかった色の無い日常を送っていたある時、唐突に脳裏へと語り掛けてくる声を聞く。

「その名は飾りか？その生はその魂と同居できているのか？お前の衝動に目を背けるな」

疲れからくる幻聴とレッテルを貼り、無視をし続けること幾ばくの日常の中で、考えとは相反し、体は不定形に、
そして苛烈な炎と冷徹な氷が氷室太陽に押し付けられた。
しかし、余りにも正常とかけ離れたこの体になると、これが当たり前であると、このように生まれてきたのだと
自然と受け入れるとともに幻聴は瞬時に渇望へと変わる。

「刻まれた名に相応しい者へと至るために…」

能力の扱いに安定性が欠ける新たな日常を過ごす太陽の元へ、堂島という男が訪ねて来てからとんとん拍子に
UGNエージェントの裏方で情報分析やサポートをするようになるが、常々衝動と環境との乖離に苦しむ。

ある日久しぶりに家族旅行へ出かけることになる。
性格や人柄などが随分と様変わりした太陽に両親も妹も驚きはしたが、歓迎してくれたことで
最高の思い出となると予感した時、全てが反転する。
原因不明の発火による旅館が全焼し、宿泊客、従業員含め半数以上が重傷または死亡するという火災事故。
病院で目覚めた太陽の記憶に残るのは妹の流血と涙、そして「愛に偏りがあっては駄目だろう？」という声であった。
その事件後、何故か能力の制御と出力が格段に上昇したことから、現場職に転向する。
現在は記憶と下半身の感覚、更に両親までも失ってしまった妹を世話しながらUGNエージェントとして生活しており、